

目 次

	頁
1. [巻頭言] 本との出会い、人との出会い	権藤 敦子 2
2. Bach音律解読史とLehman律 (その2)	野村 満男 3
3 「現代曲」という問題について	辻 絢子 5
4. 会員名簿の訂正	6
5. 新入会員紹介	6
6. 会員によるコンサート案内	7
7. 新刊紹介	9
8. CDリリース	9
9. 一口メモ「ダウンロードリリース」	9
10. 第5回日本音楽表現学会熊本大会発表募集	10
11. 学会からのお知らせとおねがい	11
12. 「コンサート等後援願」書式	12
13. 「入会申込書」書式	12
14. 役員名簿・編集後記	12

日本音楽表現学会事務局

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学教育学部 奥研究室気付

Tel. & Fax. 086-251-7647 E-mail: s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/OHG-index.htm>

郵便振込口座：01370-6-78225 音楽表現学会

銀行口座：三井住友銀行(0009)岡山支店(651)日本音楽表現学会(普)6639449

日本音楽表現学会理事 権藤 敦子 (音楽教育)

いきなり私事で恐縮だが、先日、高校の卒業式を明日に控えた娘が学校からもらってきたお便りに、「私の進路を決めた一冊」という記事が載っていた。振り返ってみると、自分にとってもそれはちょうど高校時代に出会った一冊である。故小泉文夫先生の『音楽の根源にあるもの』が出版されて間もない頃、恩師、原田宏司先生に勧められて一気に読んだときの新鮮な驚きは今でも忘れられない。狭い世界のなかでしか「音楽」を捉えていなかった高校生にとっては思いがけない内容だったが、小泉先生独特のわかりやすい言葉はすっと心に飛び込んでくる。今、改めて読み直す

と、私自身が模索し続けてきたライフワークが、実は「まえがき」に書かれている「特定の個人の個性的創造に注目するかわりに、多数の集団による一般的表現の特徴に重点をおく」ことだったのだ、と、なんだかお釈迦様の手のひらに乗った孫悟空の気分である。

一般の人々の音楽表現のなかには、学校の音楽の授業について考えること

も含まれる。また、明治・大正時代を生きてこられた方々の音楽経験を聞かせて頂くことも、現代の日本しかしらない世代にとっては大変貴重なお話である。一冊の本から蒔かれた種は、私のなかで様々な形となり、そして、新しい出会いを生み出していったように思う。加えて、学会のように、共通の問題意識をもった集まりで得られる出会いは、自分と本との対話、という限られた範囲から、時には考え方の枠組みを一新するような、画期的、飛躍的な発展を生み出すこともある。

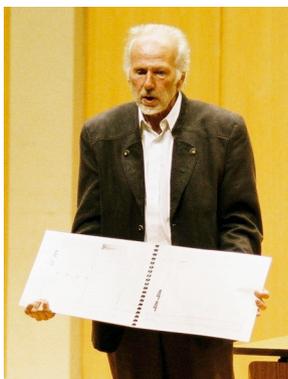
最近の経験では、昨年度、日本音楽表現学会でご後援頂いたマリー・シェーファー氏の講演は私にとって非常に貴重な出会いとなった。シェーファー氏の著作には翻訳されたものも多く、サウンドス

ケープという概念を授業で学生に紹介してきた。しかし、実際に彼の作品を聴き、その作品について語る作曲家としての言葉を聴いたとき、何十冊の本を読んでもわからない何かを一瞬で感じたように思う。

今年度は、ありがたいことに、学会の熊本大会で「聴衆と異文化受容」というパネル・ディスカッションに参加する機会を頂いた。学会大会の裏方担当の経験は豊富(?)だが、あまり、表に立つことのない私にとって、同じテーマを4人で複数の視点から検討するという時間はとても刺激的である。自分の物の見方とは違う捉え方と出会

い、それをフロアの方々の意見と交流できるのも、学会ならではのチャンスだと思う。

個人的な経験から言えば、研究には、本と出会い、人と出会い、その交流を大切に育みつつ、知の枠組みを発展させる時間が不可欠だと考える。しかし、昨今の状況に見られるように、外部資金獲得による「研究」の数、お墨付きの論文の数を競



「スレノディ」の楽譜をもったシェーファー氏

わせ、さらには、その実績で大学の将来まで占うような動向は、音楽表現をじっくり考えたい者にとっては、憤懣やる方ないものである。

「音楽について語ることは、一般に楽しいが、時として苦痛でもある。それは、音楽というものが、本来自らうたったり鳴らしたりするものであって、それについて考えたり、批判したりするものでないためかも知れない」と『音楽の根源にあるもの』は始まる。これは、音楽表現に関わる会員が共通に感じることもかもしれない。しかし、音楽表現について語り合い、時には口角泡を飛ばして議論し、ともに高めあうような場として学会が機能することによって、21世紀における音楽、表現のあり方に関わる研究の新たな知見、パラダイムが生まれるきっかけとなるのではないかと期待している。

その2. LehmanのBach音律

野村 満男（古楽研究）

ループ模様が「コンマ率分配図」とするLehmanの解釈をまとめると以下ようになる。

- ① C音の位置は右から二つ目のループにBach自身が記入している。
- ② 各ループは一回転か二回転、あるいは三回転の三種類で示されている。一回転ループは純正で、ループ内の小さい輪のユニットは1/12ピタゴラスコンマ（以下PC、シントニックコンマはSCと略記）。
- ③ 三回転ループの5度E-B-F#-C#はVallotti律同様-1/6PCで整律、3つの5度E-B-F#-C#は一回転ループの純正。
- ④ 3つの5度C#-G#-D#-A#は二回転ループで

-1/12PC。

- ⑤ A#-Fは繋がっていないが+1/12PC広がる。
- ⑥ 右端の小さい3つのループは始まりの長3度F-Aの「ビート数・秒」を示唆している。

次に、LehmanのBach音律各音の指数表示と各5度間のテムパリング量、C°からの各音セント値を示す（ただしLehman自身は、セント値が「等分律音程だけがラウンドな値に収まる」表示なので、他の音程分析には、オルガン製作家 J. Brombough創案の単位「テムパラメント・ユニット＝略号TU」の使用を推奨。それによるとPC=720TU/SC=660TU/スキスマ=60TU……等、計算で多用する整数3,4,5,6,12で割り切れる値になり合理的）。

表 LehmanのBach律

F ^{+2/12}	C ^{-1/6}	G ^{-2/12}	D ^{-4/12}	A ^{-6/12}	E ^{-8/12}	B ^{-8/12}	F ^{#-8/12}	C ^{#-8/12}	G ^{#-9/12}	D ^{#-10/12}	A ^{#-11/12}
」	」	」	」	」	」	」	」	」	」	」	」
↳1/6pc	↳1/6pc	↳1/6pc	↳1/6pc	↳1/6pc	pure	pure	pure	↳1/12pc	↳1/12pc	↳1/12pc	↳1/12pc
501.96¢	0¢	698.05¢	196.09¢	894.14¢	392.18¢	1094.14¢	596.09¢	98.04¢	798.04¢	298.05¢	998.55¢

（コンマ分割律のセント値への換算法と調律の実際については、別著『チェンバロの保守と調律・補遺篇』東京コレギウム刊参照）

ループ模様が、コンマ分配率によるBach音律とみて「ロゼッタ・ストーン」「パンドラの蓋は開かれる」とするLehman説は認められつつあるようだが反論もあり、一つの解釈、つまり「Lehman第一調律法」というべきだとの見解もある。

Lehmanへの反論

次に主なものを挙げる

- ① Lehmanは「ループ模様を反転」して論を進めているが、それについてBach自身の言及はない。
- ② 「Bach自身が」C音の位置指定をしているとしてもCは「二つめのループ模様」ではなく、右端と解釈できる。その場合音律は大きく変わる。小文字のcは単に'Clavier'のイニシアルCの装飾書体としてつける「セリフ」ではないだろうか？それはほとんど筆癖かと思えるほど例があり（BWV1006/224/1004/124/109/25/40/45/127/《WTC第2巻》プレリュード番号のいくつか）、ほかのアルファベットと数字にも付けられ、Lehmanは'Das'のイニシアルDの装飾書体内

（下図矢印）にある小文字のcは無視している。

C音指定を認めると確かに装飾イニシアルD内のEsとDを分割する長い縦線のあたるループがCから5度圏でEsになる。しかし、分割縦線はピッチ差を示唆・・・つまり半音差でも同じビート数でよい・・・という意味なのかもしれない。

- ③ 1722年当時、コンマを分配するテムパリングとビート数との間の正確な関係は理解されていなかった。
- ④ 各ループ内の小さい輪

のユニットは1/12PCとは限らない。

- ⑤ 右端の小さい3つのループはF-Aのビート数ではなく、「C」「0」「3」つまりC-Eが純正長3度（仏研究者 Jobin）。

Jobinによる⑤の解釈は、かねてから純正C-Eにこだわる弟子Kinbergerに、「C-Eは純正にする必要はない」と指導したと伝えられる師匠の方針

に矛盾するので、「C-Eは3ビート」とみることができのかもしれない。

J. C. Francisの解釈では $a^1=415.88\text{Hz}$ 。Francisはループ模様の一回転ループはゼロ・ビート/二回転ループは1ビート/三回転ループは2ビート（オクターブ下がれば1ビート）として、調律出発音がすべての12音それぞれに考えられるとすれば、手順がループ模様の「左から右へ」なのか「右から左へ」なのか、ループ模様を反転するかしらないかで48とおりの音律が作れる。そのうえ、「コアトン(コルネット・トン)」なのか「カマートン」なのかの要因を加味すると考えられる音律数はごく膨大になる・・・という見解をLehman説より早く唱え、可能性を総当たりしながら《WTC》と適合性の高い音律に焦点を当てている。

「コンマ図」「ビート図」のいずれであっても、Bachのループ模様にはWerckmeister第三音律の巧妙な「連鎖するテムパリング5度の間に純正5度を挟む」特徴が受け継がれている。その手法によれば、各種調性への適応度が上昇する「延命効果（別著『Mozartファミリーのクラヴィア考』p.124参照）」が生じる。延命効果は前記「ケルナー創案のBach音律」にも採り入れられている。しかし、「ケレタートのBach音律」にはない。そのため標準偏差の値が高くなり、各種調性への適応性低下を招いている。

Lehman律の標準偏差

いち早く古典音律研究を始めた先達、J.M. Barbourは、音律分野に標準偏差（児童生徒の「学力偏差値」とは異なる）を用い、「等分律（偏差値ゼロ）基準から見る音律評価」によって古典音律のずれ加減を要約した。筆者の計算ではLehman音律の標準偏差は4.27。前掲の標準偏差値表に示すように古典音律、中でもBach音律解釈の中ではぬきんでて多くの調性への適応度の高い数値である。因

みに、「延命効果」のゆえに各種調性への適応度が高く、実践家がたびたび採用していた調律法のWerckmeister第三の変化形（Kirnberger第三から移行する技法、別著『チェンバロの保守と調律・補遺篇』p.167参照）は5.52。また、前記Francisの王冠解釈律の標準偏差は6.86で、「ケルナーのBach音律」に並ぶ。

Lehman律近似の簡便調律

LehmanのBach音律は好評だが、もっと簡単に「近似」の音律が得られる実技手順がある、とEarly Music誌読者投稿欄（May, 2005）に英国のKenneth Mobbs & Alexander Mackenzie of Ordが寄稿している。それによれば、わずか5音に1~4cの差が生じるだけでLehmanのBach音律に極めて近い音律になるという。参考までに調律手順は、以下のようにCからミーントン5度ではじめ、Lehman律より遙かに簡便。やはり「延命効果」が含まれている。

- ①C-G-D-Aの各5度を通常の1/4SCミーントンで整律。
- ②A-E-B-F#の各5度は純正。
- ③F#-C#-G#-E♭-B♭の各5度は最後のF-Cを含め、うまくサークルが閉じるようにわずかに狭く整律。

おわりに

古典音律については「必要を感じない」「（標準偏差の値が低いものほど）違いが分からない」という声が聞かれる。しかし、Lehman律程度の響きからは、12等分律の響きとは異なる「別世界」を感じることができる。会員のみならず、お試しあれ。

各種古典音律による試奏のさい、転調が多用される曲の中で異なる多くの5度、3度等が感得できるのであって、同一調性のなかで進行する曲（例《キラキラ星変奏曲》）を使うのは無意味なのでご注意ください。

「その1. Bach 音律の解説」正誤表 2006年No.2の記事に以下の校正ミスがありました。ここに謹んでお詫びを申し上げますと共に以下を修正していただきますようお願いいたします。また、first name, second とsir nameの省略ピリオドの後にはすべて半角スペースを取っていただくようお願いいたします。

箇所	正	誤	箇所	正	誤
p.4 左 表 11.2	J, Barnes	j.Barnese	p.5 左 1.4	Calculus	Culculus
p.4 右 1.3	Kirnberger	Kimberger	p.5 左 1.6	1.7冒頭へ移動)
p.4 右 1.9	なったNapoleon	なった」Napoleon	p.5 左 1.17	Sparschuh	Aparschuh
p.4 右 図 2	』『音楽迷路』の	』の	p.5 右 1.3	Zapf	Zaph
			p.5 右 1.8	Temperaments	Temperamants

【随想】

「現代曲」という問題について—あるいは"「現代曲」という問題について" という問題に関する、ある演奏家／哲学者の独り言—

横浜国立大学大学院生 辻 絢子（美学）

私はWhyやHowに興味が無い。関心ごととはWhatだけ。なので、「なぜ現代曲はこうも演奏者に人気がないのか」だとか、「どうすれば現代曲が身近になるのか」といったことを綴る気はない。

Whatを問うのは哲学者の性だろう。だが、考える、根本を問う、という態度は本来哲学者の専売特許ではなく、あらゆる人々の活動の起点となるべき姿勢だ。

ただ小手先の技術を磨き使いまわしていたのでは、既存の価値観から外へ出られず、目隠しをして歩んでいるのと同じ状態である。演奏家も作曲家も、自主的に考え、路を開くべきだろう。

現代曲に人気がないとか、演奏されにくいとか、聴きづらいとか、そういった問題に正直、私は深入りしたくはない。私は現代の音楽が好きだ。演奏もする。でも、他の人が違ったからといってそれを「無知」などと非難するのは間違っているだろうし、そもそも「多数であれ、購買力を増大せよ」といったいかにも民主主義×資本主義的な考え方に従う必要などどこにもない。

現代曲を弾くか、弾かないか。そんなことよりも、問題はむしろ、多くの人がクラシックを弾く、あるいはクラシックこそ多数派で世界を支配している、と思いついでいるというのは一体どういうことなのかを考えることではないだろうか。

多数派＝権力。誰もが抱く揺ぎ無い確信。

何かの一員でいることの安心感。調性という極めて局所的な現象に対する従属がもたらす快感。協和音の安堵感。

みんながそうである、ということが真実に変わってゆく瞬間。

それらすべてが虚構に過ぎないのでは？

我々は“現代的”な雑音を前に、平均律という極めて歪な音体系に安心感を持つのか？意味不明な音の羅列を前に、調性的旋律という極めて人工的で恣意的な関係に安心感を？

何が心地よく、何が自然であるか、決めるのは誰なのか。

現代曲を疎ましく思ったり、現代曲を理解できないと思ったり、あるいはその逆に、クラシックを好ましく思ったり、クラシックを理解していると思ったり。

もしこれが音楽ではなく、人種の問題だったら、あなたはそう簡単に、「私は現代曲が嫌い」とはいえないはずだ。もし「現代曲」が「黒人」だったり「ユダヤ人」だったり「アラブ系民族」だった場合、あなたは決して、「かかわりたくない」と、そう簡単にはいえない。

「クラシック」という名の「西洋」を、疑問視せず、そこから逸れることを許さない。演奏を教え、演奏で生きていく者たちの姿は、時々、全体主義国家のあり様に似ている。

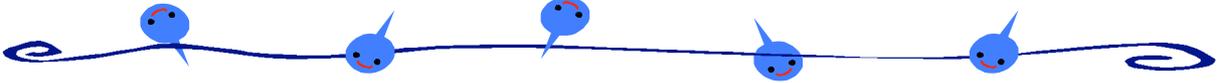
現代曲を弾かないことが問題なのではない。

よく考えることをせずに、多数の側にいるために、極めてあやふやな安心感のために、可能性を自ら失ってゆくことが、問題なのだ。だから私は現代の作品を聴き、弾き、愛そうと思う。



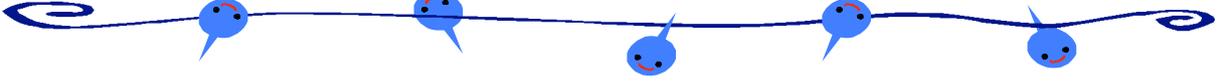


会員によるコンサート案内



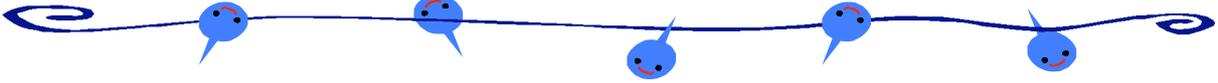
フィルハーモニア・カルテット ベルリン

日 時：2007年1月14日（日）14:00開演
会 場：鳴門市文化会館
曲 目：ドヴォルザーク：ピアノ五重奏曲イ長調Op.81
ピアノ：村沢 由利子



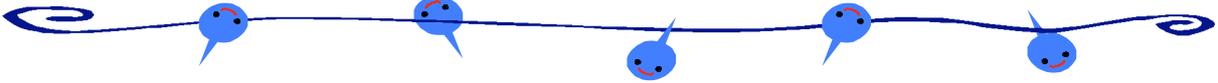
ルネスクラシックシリーズNo.12 インプロ・シアター IN ルネス

日 時：2007年3月21日（水） 18:30-20:00
会 場：ルネスホール（おかやま旧日銀ホール）
インプロ：観客からのアイデアをもとに創る「即興演劇」
インプロヴァイザー：鶴川友梨、川戸貴文、明石光弘、歌島昌智
企 画：大場 真護



ハープ&ピアノ ピアノと共に

日 時：2007年6月3日（日）15:00開演
会 場：長久手町文化の家 森のホール
出 演：ピアノ 岡崎 章、熊谷恵美子、ハープ 松川恭子
曲 目：ドビュッシー：ダンス、神聖な舞曲と世俗的な舞曲
シマノフスキ：仮面劇より「ドン・ファンのセレナーデ、他



木村貴紀ピアノリサイタル

日 時：2007年8月12日（日）15:00開演
会 場：東京文化会館小ホール
曲 目：ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番「月光」

シューベルト：「さすらい人幻想曲」 他
連絡先：プリスキラ・アーツ 03(3571)0955



豊田典子 ソプラノリサイタル

日 時：2007年9月23日（日）18:30開演

会 場：イシハラホール

曲 目：第1部：バロックとモーツァルトのオペラ・アリア

第2部：三善晃 組曲「四つの秋のうた」

朝岡真木子 組曲「花筏」より 他

連絡先：大阪アーティスト協会 06 - 61350 - 0503



新刊紹介



寺内 大輔：『王の主題 サクソフオンのために』

マザーアース社 1785円



小西潤子・仲万美子・志村哲：『音楽文化のすすめ』

—いま、ここにある音楽を理解するために—

ナカニシヤ出版 2500円+税



CD リリース

寺内 大輔：Michal Osowski Collective, Live at white elephant?

リリース番号：AYLDL-043

定価 8.7ユーロ（現在、約1350円）

ロッテルダムのライブバーwhite elephant、デン・ハーグの劇場Korzo Theaterでのライブ録音
演奏メンバー：Wieland Moeller、Gonzalo Pinto d'Almeida、寺内大輔、三宅珠恵、Michal Osowski



一口メモ ダウンロード・リリース

ダウンロード・リリースは、音楽配信とも呼ばれている販売形式です。インターネットを通じて、MP3ファイルなどの音楽データのみを販売するため、製品CDに比べ製作コストが低く、結果、利用者が安く録音を手に入れることができます。また、お店に行かなくても試聴・購入ができる手軽さや、収録曲中の1曲のみを購入することが出来ることも大きな特徴です。約10年前から始まった販売形式ですが、高速インターネットの普及、セキュリティ強化（クレジットカード情報など）に伴い、ここ数年で急激に盛んになってきました。

現在、「iTunes Store」や「Yahoo!ミュージックダウンロード」など、様々なサイトがこのサービスを行っています。今回、寺内のバンドのCDをリリースした「Aylerecords」では、データから利用者がCDを製作できるよう、CDジャケットの画像データを無料ダウンロードできるサービスも行っています。
(寺内大輔 記)

設立 5 周年

日本音楽表現学会第 5 回大会（火の国大会）

研究発表・ワークショップ等募集中!!!!

申込〆切：4月20日（金）

内容：発表者氏名、タイトル、研究発表／ワークショップの別

宛先：学会事務局

方法：メールまたはファックス

これまでに蓄積した研究、日頃の音楽、実践を持ち寄りましょう。

期 日：2007年6月16日（土）～17日（日）

会 場：熊本大学大学教育センターF棟

基調講演とシンポジウム：「日本の合唱」（仮）

基調講演 講師：松原 千振 氏 東京混声合唱団常任指揮者

シンポジウム司会：中村 隆夫 氏 北海道教育大学教授、札幌コダウイ合唱団・合奏団指揮者

パネリスト：松原 千振 氏 東京混声合唱団常任指揮者

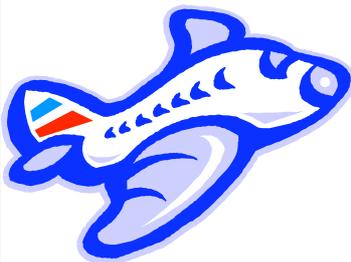
古橋富士雄 氏 NHK東京児童合唱団名誉指揮者、日本合唱指揮者協会理事長

齊藤 祐 氏 鹿児島大学教授、声楽家

パネルディスカッション：「聴衆における異文化受容」（音楽表現異文化受容シリーズ第3弾）

企画：権藤 敦子 氏

パネリスト：伊野 義博 氏、小西 潤子 氏、杉江 淑子 氏、



熊本は森の都とも呼ばれ緑豊かな町です。学会が開催される頃はそのみどりをもっとも鮮やかに輝いていることでしょう。学会がスムーズに開催されるよう精一杯準備をしたいと考えていますが、大きな学会を引き受けた事がない上にスタッフも少なく不安材料がいっぱいです。いろいろとアドバイスをいただきますようお願い申し上げます。

実行委員長：吉永誠吾

航空券、チケットの手配はお早めに

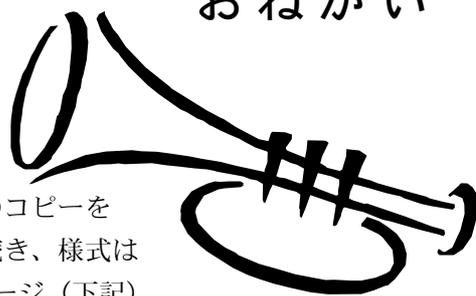


学会からのお知らせと おねがい

『音楽表現学』Vol.5 原稿募集

既にお知らせしているとおり、投稿の締め切り日は5月31日になりました。投稿を予定されている皆様はお間違えないようお願いいたします。また、投稿時に原稿のコピーを6部提出していただきますようお願いいたします。投稿の手続き、様式は『音楽表現学』Vol.4巻末の「投稿規定」および学会ホームページ（下記）をご覧ください。会員諸氏のご応募をお待ちしています。

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/toukougitei.htm>



『音楽表現学』購入方法

必要な方はメールで事務局までお申し込みください。

以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

Vol.1～Vol.3は1部1500円+送料、Vol.4は会員価格1部3000円、一般価格1部3500円+送料です。

ニューズレターへの投稿

ニューズレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。

- ・投稿は随時 ・字数も自由です。全頁で23字×35行×2段で105字を標準に、お考えください。
- ・原稿は、wordを用い、メールの添付書類でお送りください。・送り先は学会事務局です。

学会費納入に関する切実なお願い

学会は会員の学会費によって運営されています。

発足後間もない本学会では、志ある方々の前納会

費が学会運営の潤滑油となっている一方、過年度会費未納の方の存在が経費の負担を招いています。

「郵便局へ行く時間がない」ために未納になるような方には複数年度分を前納されることをお勧めします。送金は、ニューズレター最終ページに記載された口座で郵便局から送金される場合には、振込用紙をATMに通していただくと手数料が安くなります。

学会の会員サポート制度をご活用ください

- ★ 研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ★ 大会の口頭発表は、日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その適用性を問うワークショップなど日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ★ ニューズレター「コンサートのご案内」では、会員による各種の演奏、ワークショップ、イベントなどの活動紹介を行います。これらの活動を学会は「後援」します。みなさまの活動をニューズレター最終頁の「後援願」の様式で、どしどしお寄せ下さい。
- ★ 「新刊案内」では、会員による刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせください。
- ★ その他、所属されている他学会の情報などもお寄せ下さい。

(様式)

コンサート等後援願い
日本音楽表現学会の後援をお願いします。

氏 名： _____
所 属： _____
コンサート等の名称： _____
コンサート等の趣旨： _____
主な内容： _____
期 日： _____
会 場： _____
連 絡 先： _____

(様式)

日本音楽表現学会入会申込書
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。

氏 名： _____
専門分野： _____
住 所： _____
所 属： _____
連絡先： _____
連絡先電話番号： _____
連絡先Fax.番号： _____
e-mail アドレス： _____
推薦者名 (学会員・1名) _____
音楽表現学会に期待されること。ご意見等： _____

ニューズレターの「新入会員のご紹介」欄のための原稿執筆のお願い

日本音楽表現学会ではニューズレターで新入会員の紹介を自己紹介の形式で行っています。申し込みと同時に原稿を送っていただくと、連絡や編集作業が順調に進むように思われます。ご協力をよろしくお願いいたします。

- 1) 自己紹介の内容：以下の項目の中から適宜選択して、文章にしてください。
なお、「よろしくお願いします」などのご挨拶用言は省きますので、あしからずご了承下さい。
 - ・所属 ・専門 ・音楽表現について思うこと ・この頃思うこと
 - ・モットー ・夢 ・ホームページアドレス, 等々
- 2) 字数：150字を超えない程度でお願いします。
- 3) ㄉ切：入会申込書と同時に提出ください。
- 4) 送付方法：メール 本文としてお記し下さい。メールをお使いにならない方は郵送でお願いします。
- 5) 宛先：s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

日本音楽表現学会 役員

会 長：中村 隆夫
副 会 長：安藤 政輝, 奥 忍
理 事：川口 容子, 権藤 敦子
 佐々木正利, 森川 京子
会 計 監 事：若井 健司, 加藤 晴子
編 集 委 員 長：北山 敦康
副 委 員 長：杉江 淑子
委 員：加藤富美子, 後藤 丹,
 谷口雄資, 安田 香

編 集 後 記

日本音楽表現学会は今年度5周年を迎えます。会員数も200名を越えました。これまでの行程を学会の揺籃期とするならば、これからは充実に向かって着実な発展を目指すべき時期といえるでしょう。会員諸氏と一体になって音楽表現の深化を図っていきたいと考えます。熊本大学を会場に催される「火の国大会」では、そんな思いを発表の形で実現しませんか。最後に、ニューズレターの原稿は電子メディアでお願いします。図表などは鮮明なものをお願いします。(奥忍)